

安全・健康ニュース

安全委員会委員長 瀬谷周三

皆様、新型コロナ感染が収まらない中、如何お過ごしでしょうか。
今年は安全委員会の行事は密を避ける意味からも実施出来ない状況です。
新型コロナに感染し回復した8割以上の方は、その後、倦怠感が続く、呼吸が苦しい、関節が痛い、胸が痛い、咳が残る等の症状が続くようです。これから、冬に向かってインフルエンザも増えてきます。
マスク着用は勿論のこと、手洗い・うがいを徹底しこの難局を乗り切っていただきますようお願い致します。

二十年間の意識 小林敏彦



事故の確率の一番高い植木職群で、二十年間休まず働き続けられたのは、幸運であった。幼い頃に農家を手伝った経験、中高年になりベテランズ陸上で鍛えた体力等を武器に当初から仕事には馴染めたものである。しかしこの間、先輩や同僚の色々な事故を目の当たりにして、原因を分析してみると、高所作業とか器具の不具合とか、身体的状態とかいわゆる外的要因だけで片付けられるものではないと思われた。大切なことは、常に仕事に取り組む心構え、即ち自己の心理的要因により事故は大幅に防げると確信している。

私はこの二十年間、密かに意識してきた事がある。その一つは「条件反射」これは大脳生理学者の故林譚博士から、高校時代に講演で教えていただいたテーマで、人は年齢にかかわらず、数多くの脳細胞を互いに敏速に且つスムーズに伝達させ、結びつけさせるかという、イメージをいつも意識して行動すること、即ち危険予知能力の持続を意味するものである。そ

の二つは「呼吸運動」これは東京混声合唱団の創設者である田中信昭先生から合唱団時代に学んだテーマであり、全ての行動に於いて呼吸を整えて、全身の無駄な力抜いて地球をやさしく、やわらかく支え、あらゆる雑念から自己を解放することを、イメージし続けることを意味するものである。基本的には共働、共助での仕事でもあるが為に、チームワークが乱れて、逆に意識が分散され、集中力が保たれず「自己」を見失い事故につながらないよう、これからも心掛けてまいりたい。